

佳作

## 人を笑顔にするフィルター

茨城県 ひたちなか市立外野小学校六年 西本 育真

ぼくは毎週木曜日にはサッカーの練習がある。そして練習のグラウンドへ行くときには、バスと電車を使う。この日もぼくはいつものようにバスに乗った。そしてそのバスが五つ目のバス停に差しかけたとき、サラリーマンがおりる準備をした。そのサラリーマンはとてもつかれた感じで暗い顔だった。おりるために車内を前に歩いていったそのサラリーマンに運転手さんは気軽に

『今日も、一日おつかれさまでした。』

と、高い明るい声で言った。ぼくは少しおどろき運転手を見ていた。次のバス停で子どもを連れれたお母さんが、車内を前へと歩いてきた。そのお母さんに運転手さんはこう言いました。

『晩ご飯がんばってつくってください。』

するとお母さんは笑顔になっておりていった。ぼく

は今まで何度もバスに乗っているが、そんな運転手は初めてだった。さらに受験生には

『勉強がんばれ。』

と、言った。その受験生は、ニコツとほほえんだ。

それまでの車内はどんよりしていて、みんなつかれたようなふんいきでけいたいをいじっていたり、うとうとした人もいた夕暮れ時のバスだったのが、だんだんと「次は何と言うのだろう」「ぼくには何と言ってくれるのだろう」「私にも言ってくれるかな」というふんいきになっていた気がした。その運転手さんの何げない一言は魔法のようだった。ぼくも、「何と言ってくれるかな」「練習に行くこと、分かってくれるかな」などと考えた。いよいよぼくがおりるときがきた。そのときはちゃんと

「練習がんばれ。」

と、言ってくれた。バスをおりてからグラウンドに行くまで、ぼくはあの運転手さんががんばっているのだから、ぼくもがんばろうと思って、す直に一生けん命練習しようという気持ちで歩いた。

「晩ご飯作るのいやだな」という気持ち、「練習つらいな」という気持ち、「仕事いやだな」という気持ちを取り除き、きれいにしてくれる、その運転手

さんの言葉は汚れた水を取り除き、きれいな水にする『フィルター』のようだった。

その運転手は今日も乗客を笑顔にしていると思うと、ぼくも人を笑顔にしたいと思う。こんどはぼくが「つらい気持ちやいやな気持ちを取り除くフィルター」になりたいと思う。